

指定管理施設事業評価票(令和6年度分)

1. 施設所管課

日光公民館

2. 指定管理施設概要

施設名	名称	日光市霧降スケートセンター					
	所在地	栃木県日光市所野2854番地先					
指定管理者	名称	一般財団法人 日光市公共施設振興公社					
	代表者名	代表理事 斎藤 信義					
	住所	日光市瀬尾1640番地22					
指定期間		令和6年4月1日		～	令和11年3月31日	5	年間
選定方法		公募			評価実施年	5 年間のうち 1 年目	
施設設置目的		市民の健全な心身の育成とスポーツの普及振興に資することを目的に設置。また、スポーツ施設、誘客・冬季活性化施設等としての位置づけられ、日光市のスケート文化を継承する場となっている。					
主な実施事業		大会支援事業（日光霧降スケートセンター杯、バジテスト、社団法人日光成年会議所学童スピードスケート、冬季国体スピードスケート競技県予選会、高体連中部地区スピードスケート選手権大会、全国中学スピードスケート競技選手権予選会、栃木県チビッツスプリント大会、栃木県スピードスケート選抜大会、小学生記録会、県下中学・高校総体スピードスケート競技、チビッツスピード競技、栃木県スピードスケート競技選手権大会、日光霧降スケートセンターゴールドスピードスケート大会、青森県対栃木県スピードスケート交歓会選手選考会、全日本学生氷上競技選手大会（スピードスケート競技）、青森県対栃木県小学生スピードスケート交歓会、チビッツスピード記録に挑戦する会、全国高等学校スケート競技選手権大会、関東高校選手権大会）、スケート教室事業（ワンポイントレッスン、団体利用ボランティアインストラクタースケート教室）、利用促進事業（オープン日無料開放、スケートの日無料開放）、飾花事業（プランター設置）、施設有効活用事業（日光影体験教室、ふくべ細工絵付け体験教室、自動車イベント、安全啓蒙スタッドレス試乗会）					

3. 利用状況(目標と実績)

成果指標		単位	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
a	基礎コース/スピードスケート教室の開催	日	20	中止								
b	利用者の満足度	%	90	100.0								
c	光熱費削減	%	98.5	113.3								
d	収入増加(入場者)	人	23,700	14,485								
e	環境配慮率先行動計画への取組率	%	90	90								

4. 指定管理業務にかかる収支状況

(単位:円)

区分		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
収入計	A	35,050,276	0	0	0	0
	指定管理料	34,550,000				
	利用料収入	C 0				
	自主事業収入	497,953				
	その他	2,323				
支出計		B 34,803,039	0	0	0	0
指定事業費		34,803,039				
	内人件費	D 18,854,937				
	内外部委託費	E 6,826,404				
	自主事業費	0				
事業収支		A-B 247,237	0	0	0	0
人件費率		D/B 54.18%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
外部委託比率		E/B 19.61%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

※着色セルは、自動計算としている。

補足説明	

サービス改善の状況

・利用者及び大会関係者の要望に沿うように早朝利用の早開けの実施や、その他利用者の要望を最大限聞き入れて対応した。
・夏場の草刈作業や冬季の除雪作業など、広大な施設内外を常に維持管理を徹底し利用者から喜ばれるよう努めた。
・初めてスケートを体験する方が多いため、滑り方のアドバイスをを行った。
・貸靴について状況に応じて靴の変更に柔軟に対応した。(フィギア靴→ホッケー靴など)
・リンク管理では気温が上昇しており細かく調整が必要だったが最高のコンディションを保てるように努力した。

5. 管理運営状況

評価項目		評価基準	指定管理者 自己評価	施設所管課 評価	
①サービスの 履行の 確認	人員体制	事業計画に即し、人員を過不足なく配置している。	B	B	
		必要な資格、経験を有する人員が確保されている。	B	B	
		事業計画に即し、計画的に研修等を年1回実施している。	B	B	
	外部委託	外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	B	B	
		外部委託業者に対して、協定書等を遵守させている。	B	B	
	法令遵守等	法令、条例等に基づき、必要な点検、報告等を行っている。	B	B	
	個人情報保護	個人情報保護に関する法令を遵守している。	B	B	
		個人情報の漏えい、滅失等の事故防止策に対する研修を年1回行っている。	B	B	
	情報公開	情報公開に関する法令や条例に準拠した運用がなされている。	B	B	
		協定書に従い、情報を適切に管理し、公表している。	B	B	
②サービスの 質の 評価	施設管理	業務日誌等を適切に整備、保管している。	B	B	
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	B	B	
	利用者対応	協定書に従い、各報告書等を、市に提出している。	B	B	
		市、関係団体等との連絡調整を適切に行っている。	B	B	
	事業運営	事故、災害等の緊急時の連絡体制が整備されている。	B	B	
		緊急時のマニュアルが整備され、年1回訓練を行っている。	B	B	
	維持管理	避難経路が適切に確保されている。	B	B	
		「業務の実施体制」に関する評価【17項目】	B	B	
	③安定性	施設管理	協定書に従い、開館日、閉館時間等を遵守している。	B	B
			事故防止及び安全確保のための研修を年1回行っている。	B	B
利用者対応		利用許可、案内等を迅速かつ適切に行っている。	B	B	
		利用者に対して、設備、備品等を適切に提供している。	B	B	
事業運営		言葉遣い、態度、服装等接遇が適切である。	B	B	
		事業計画に即し、受託事業を実施している。	B	B	
維持管理		施設の目的に沿った自主事業を実施している。	B	B	
		事業内容がサービス水準の向上に寄与している。	B	B	
環境配慮		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理等を適切に行っている。	B	B	
		仕様書等に従い、施設や設備の保守管理を行っている。	B	B	
所見 (成果・課題等)	広報活動	備品台帳に基づき、備品を適切に管理している。	B	B	
		協定書に従い、適切に修繕を行っている。	B	B	
	苦情等対応	環境配慮率選考計画取組点検表において、(1)が取組項目の2/3に達している。	B	B	
		事業の開催案内、ホームページの管理等を適切に行っている。	B	B	
	利用者アンケート	要望、苦情等に対して迅速かつ適切に対応している。	B	B	
		要望、苦情等を整理し、市に報告している。	B	B	
	利用状況	利用者アンケート調査を実施し、その結果が妥当である。	B	B	
		利用実績は、目標水準である。	B	B	
	総括	「業務の内容・水準」に関する評価【18項目】	B	B	
		経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	B	B
前年度総合評価	予算執行	収支予算書の範囲内で適正に予算執行している。	B	B	
		経費が縮減され、又は縮減に向けた努力を行っている。	B	B	
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は妥当である。	B	B	
		「経費の収支等」に関する評価【4項目】	B	B	
	所見 (成果・課題等)	(指定管理者自己評価)			
		・電気料金の削減に努めるため、日本テクノと契約をし電気使用量をモニタリングしやすい環境を整えたが、温暖化の影響が強く、結水作業時期には多くの電力を使用しても作業が進まず、担当課と連携を取り、オープン時期を変更することになった。			
		・リンク管理を細かく調整し最高のコンディションで滑走できるような務め、大会では数多くの記録の更新がされる結果となった。			
		・暖冬の影響は大きく電気料金の削減が難し状況にある。			
		・職員研修は、冷凍設備保安講習会、整水安全講習会等実施し職員教育を行った。更に県及び冷凍空調工業会主催の各種研修会に多数参加した。			
		(所管課評価)			
・温暖化の影響により製水作業に苦慮している状況であるが、スタッフの努力により、予定よりも若干の遅れはあったもののオープンすることができ、その後の運営も順調であった。					
・また温暖化により、製水作業のための電気使用量が増大したことから、その後、その対策を検討しているとのことで、前向きな姿勢を評価したい。					
前年度総合評価		B(良好)	総合評価	B(良好)	

※評価区分

評価基準	A(優良)	=	協定等の遵守に加え、仕様書より優れた管理が行われた。
	B(良好)	=	協定等を遵守し、仕様書に沿った管理が行われた。
	C(要改善)	=	一部、協定等が遵守できていない。又は、不測の事態等により仕様書に沿った管理ができなかった。
※施設所管課は、指定管理者に対するモニタリングや事業報告書の内容等を踏まえ、評価します。			
※数値が記載されているものに関しては、数値目標達成がB評価となります。			
総括評価	A(優良)	=	評価項目のうち、A判定が80%以上
	B(良好)	=	A、C 以外
	C(要改善)	=	評価項目のうち、C判定が20%以上
総合評価	A(優良)	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが含まれず、かつAが4つ以上ある。
	B(良好)	=	A、C 以外
	C(要改善)	=	自己評価、所管評価の《総括》にCが2つ以上含まれる。